

新川通信

第 9 号

題字 佐藤 大作
平成 28 年 5 月 6 日発行

巻頭言

新川の思い出と越後新川まちおこしの会

越後新川まると博物館館長 佐藤 正人

新年度を迎え会員の皆さまにおかれましては、ますますご清栄のことと心よりお喜び申し上げます。

昨年 4 月皆様方のご支援のおかげで、無事新潟市議会議員に当選させて頂きましたことを心より感謝申し上げます。大変ありがとうございました。まもなく市議会議員として、一年を迎えようとしておりますが、議会活動の他、各地域の要望の対応を行い、大変有意義な議員活動をさせて頂き地域発展の為に頑張っております。

幼い頃、だだをこねて悪い子になると「お前なんか赤ん坊の時に、リング箱に入って西川から流れて来たのを、このババが拾ってやったんだすけ、そんなに悪い子になっていると西川にべちゃってやるぞ！」と祖母によく言われました。小学生になると裏のドバタ（洗い堀）でタモ網でザリガニやフナを採ったりしていましたが、毎年 6 月の中頃 2～30 cm のフナが大群で新川からのぼってきていました。藤巻さんの前位から上流の左岸は全部田んぼでしかも深く、絶好の産卵場所でした。小学校の高学年になると町内の先輩に連れられて新川で遊びました。

春 4 月の桜の咲く頃、水路橋を渡り西川の水が勢よく落ちる余水吐右側の石垣の縁に沿って銀鱗を輝やかせてのぼるイトヨをタモ網で捕り元助さんへ持っていくと 1 匹 5 円で買って小遣い稼ぎになりました。

田植えが終り新川の水も温んで来ると水路橋の真ん中の一番深い所で鯉釣りが始まります。常連の釣り人が、ゆでたさつま芋を四角に切り餌にして大鯉を釣っていました。私達は餌を買うお金も無いので

もっぱら近くの農家がワラを積んで作る堆肥を堀って真っ赤に太ったミミズが餌で、洗い堀の新川出口と崎山橋の間通称（孫サ）は、魚が集まり良い釣り場でしたが鯉は中々釣れず、フナやウグイとナマズがよく釣れました。母方の祖父がフナの煮つけが大好きで釣ったフナを持って行くと 50 円の駄賃をもらえたのでよく持って行きました。

確か小 5 の頃、夏休みの暑い日に町内の中学生の先輩達と 10 人位で新川上流の田潟のあたりで海水パンツを持ち自転車に乗って泳ぎに行きました。そのうちに先輩達が泊めてあった川舟の鎖を外して乗って遊んでいると「カラー！お前達、人の舟を勝手に乗って何してるんだ！」と怖そうなおじさんに見つかってしまい全員が陸に上げられ連ばされました。すると私は背が高かったので先輩の中学生 3 人と一緒にこっぴどく叱られた事を覚えております。

9 月 15 日 16 日は内野祭りの頃はハゼ釣りが最盛期で、中学生になると祭りに出ることが恥ずかしくて、笛や太鼓の音が聞こえる農林省橋の上で掘ったミミズを餌に丸まると太ったハゼ釣りをしていたことを思い出します。11 月の午後、河口近くの木の渚橋から釣り始めたら 4～5 0 cm のボラが面白いように釣れます。ボラに交じってデッカイ婚姻色のハヤも釣れ始めた頃には西の空には真っ黒な雲が近づき、まもなくみぞれが降ってきてもカッパを着て手をかじかめせて暗くなるまで釣っていました。中学生まで新川で四季折々の釣りをさせてもらったことを、今でも昨日のように覚えています。私にとって新川は本当に楽しい遊び場でありました。



平成 20 年 8 月 30 日に父が急逝し、葬儀のときには故丸山幸平前事務局長様はじめ、多くの「越後新川まちおこしの会」の皆様にご助けいただき、無事に葬儀を終える事ができました。それがご縁で入会させて頂きました。翌春加藤功世話人から、第 1 回水と土の芸術祭 2009 の開催に伴い、当会も新川普請まるごと博物館をやるので協力してもらえないかとの誘いがあり、加藤さんから博物館の構想を伺うとなんと！江戸時代の底樋と明治・大正時代の暗闇前面部分を実物大で制作するという壮大な構想でした。「ヤー、凄い事を考えているんだな」と感心し、早速古文書みたいな図面を原に、設計図作りが始まりました。それからは自分が今まで培ってきた仕事の技術と経験と知識を活かし、会員の皆様方からも作業を手伝って頂き、何とかオープンまでに完成させることが出来ました。

水と土の芸術祭期間中には博物館の説明も順番に回ってくる為に、新川の事は少しは知っていましたが、博物館に展示されている資料を基に勉強してみたら驚く事ばかりでした。伊藤五郎左衛門翁達が新川開削を果たすまでには並々ならぬ多くの苦労があったことや新川の完成で及ぼされた地域の経済効果などが、よく理解でき改めて先人達が成し遂げた新川開削の偉業を再認識させられました。

残念ながら暗闇は一昨年の 12 月に損傷が激しく解体されましたが、底樋は残されております。そういう事で気が付いてみると、もう当会にどっぷりつかっていました。毎年 4 月の観桜会から始まり、5 月は静田神社で行われた新川野外音楽祭等、ほぼ毎月色々な行事を行っていました。また生き物調査・新川下りや新川健康&クリーンウォークなども開催され、その行事ごとに会員の得意な能力が発揮される、素晴らしいスタッフが揃っている自慢の会でもあります。その他にも、元気ですかいのおばあちゃん達や日本こども福祉専門学校の生徒と先生達も一緒になって演じた”新川開削ものがたり”や「五郎左衛門公園」の設置活動など、本当に地域の多くの方々からの協力を頂きながら、多くの活動が運営されて来ていることは、非常にありがたく感謝するところであります。

この越後新川まちおこしの会で培った経験、特に新川開削を導き「三年に一作」の西蒲原を毎年安心して、米を作れるようにしてくれた郷土の偉人伊藤五郎左衛門翁の志を原点とし地域発展のため、誠心誠意尽力して参る所存です。

結びに、皆様の本年のご多幸ご健勝を祈念すると共に、2020 年に開催予定の”新川開削 200 年祭”のご協力をお願い申し上げます。



越後新川まちおこしの会では、地元の保育園児や小学生に歌や絵やふみ車の実演などで新川の歴史を説明しています。



「新川開削の生い立ちを学び、見学、交流する事業」

～新潟市の宝、新川を市民の人々に知って欲しい～

加藤 功

水と土の芸術祭 2015 の市民プロジェクトに越後新川まちおこしの会が手を挙げ、「越後の水と土を訪ねる北蒲原ツアー」、「越後の水と土を訪ねる西蒲原ツアー」を実施し、会員を始めとした多くの市民の参加がありました。ありがとうございました。

現在の西蒲原 2 万 ha が美田となったきっかけに、1820 年完成の新川開削工事です。工事の為に人が集り、内野町が飛躍的に発展していきました。そのきっかけとなったのは 1728 年（享保 13 年）に信州出身の竹前権兵衛、小八郎兄弟が、大江戸日本橋の高札を見て自費での紫雲寺潟干拓を行ったことからです。その後の松浜や阿賀野川の排水路工事により北蒲原に多くの新田が切り開かれました。

鎧潟、田潟、大潟の三潟の悪水に悩む西蒲原では、北蒲原の新田開発の成功を手本に西川の下に川を掘り、金蔵坂を切り開き海に悪水を流す計画を立て幕府などに請願を続けますが、新潟町などの反対でその実現には 80 年の月日を要しました。

「越後の水と土を訪ねる北蒲原ツアー」は、越後の新田開発の先駆けとなった北蒲原の紫雲寺潟干拓や松ヶ崎掘割を訪ね、現地の方から直接説明を聞く、そして普段は見れない国指定重要文化財となっている桃崎浜荒川神社の船絵馬（86 点指定）を見学するツアーです。

7 月 23 日（木）、当日はあいにくの雨模様でしたが 8 時 50 分、NEXT21 脇に参加者 18 名が集まりました。今日のコースは最初に旧二葉中学校の水と土の芸術祭メイン会場を訪ね作品を鑑賞してから松浜にむかい、現地で郷土史家の平田敬正さんより松ヶ崎開削について説明をいただきました。



松ヶ崎開削について平田さんより説明を受ける

松浜小学校の山手にある「あかしあ公園」に登ると、阿賀野川と日本海が眼の前に広がります。東屋

で 1730 年当時の松ヶ崎開削工事を想像しながら説明を聞いている間にも数機の航空機が対岸の新潟空港に降りてゆきます。当時の新潟町は、信濃川と阿賀野川の水量豊かな川湊で北前船が多く入港し大いに栄えていました。しかし、松ヶ崎開削の水路が翌年の雪解けによる洪水で破壊され阿賀野川の本流になり、阿賀野川の河口となってしまいました。新潟湊への水量は半減し北前船の入港が難しくなり新潟町の衰退へとりましたが、福島潟の潟の水位は 1.5m 程下がり、鳥見前潟なども干上がり、周辺の新田開発のための干拓事業が急激に進んだとの事でした。当時の石と葛などによる土木工事の限界もありましたが、これが無ければ新川の開削工事も無かっただけに、歴史の糸が織りなす景色の色の変化に、多くの人々が翻弄された上に私たちが居ることの不思議さを思い知らされました。

松ヶ崎決壊によって、水位が 1.5m も下がったことにより福島潟南岸一帯の高地岡方五十三か村を含む広い地域に水不足が起きました。1728 年（享保 19 年）、渡場村地内より阿賀野川右岸に平行して新崎村の新井郷川にいたる 33 km におよぶ新江用水の工事が始まりました。地元の複雑な水利権に応じるように何ども改修を重ね、その工事はその後も続けられ明治になって完成し現在 2,300ha の水田が恩恵を受けています。新川との共通点は、新江用水と地域の河川の立体交差を現在も数ヶ所で見ることが出来るものです。

昼食後、小雨交じりでしたが加治川治水記念公園内にある切石積水路の加治川本川の加治川運河水門と、同じく切石積水路の加治川分水路の土砂吐水門（土木学会選奨土木遺産）を見学しました。この水門の扉は、大正 2 年完成の新川暗闇の海水の逆流防止水門と同じものでした。



土木学会選奨土木遺産の土砂吐水門と運河水門

見学後新発田市立紫雲寺公民館に向かいました。紫雲寺公民館では、小林大作館長より紫雲寺潟干拓について約40分の講義を受けました。天保の改革による紫雲寺潟の開発、長者堀（落堀川）開削、境川メ切り、松ヶ崎開削、新潟湊の水位という越後の地理的な要素を説明いただきました。その後1階の紫雲寺潟のジオラマで説明を受けてから屋上にあがると、約290年前の竹前権兵衛、小八郎兄弟が目指した新田開発の美田が嶺形山脈の下に広がっていました。



紫雲寺公民館ジオラマの説明を聞く参加者

かつての紫雲寺潟（長さ約6km、横約4km約2000町歩）を想像すると想い出すのは1689年（元禄2年）、松尾芭蕉が「奥の細道」でここ築地より新潟への道筋についてです。随行の弟子・曾良の日記には「昼時分ヨリ晴、アイ風（順風）出。新潟へ申ノ上刻、着。」とあります。ここ築地と新潟の距離は9里（約36km）あり、朝早く出ても午後4時までで、9里の道を歩き信濃川を舟で渡るのは難しいのではと思えます。やはり紫雲寺潟より舟で島見前潟から阿賀野川を通り、新潟まで行ったと考えるのが妥当ではないかと考えています。

次に向かったのは村松浜の金毘羅神社です。この金毘羅神社は、当地の平野安之丞が村民救済

のために堀を掘って造営したものです。社殿は村上からわざわざ工匠を招き14年の歳月を費やし完成させたもので、あまりの見事な彫刻に覆堂で保護しました。現在は本殿向拝と、中柱に巻きついた双龍の彫刻の線の細いながらの力強さは見事です。又、回廊の羽目板に刻まれた見送り絵の中国人の姿は、村上大祭のオシャギリ山車の流れを強く伝えています。更に、わが国初のアメリカよりの帰国人、中浜（ジョン）万次郎を船長に迎え、太平洋・小笠原の父島を母港とする本格的な捕鯨事業を計画した地です。

近年浜手に国道113号線ができ、かつての村を通る浜道りに寄る機会がめっきり少なくなりましたが一見に値するものです。

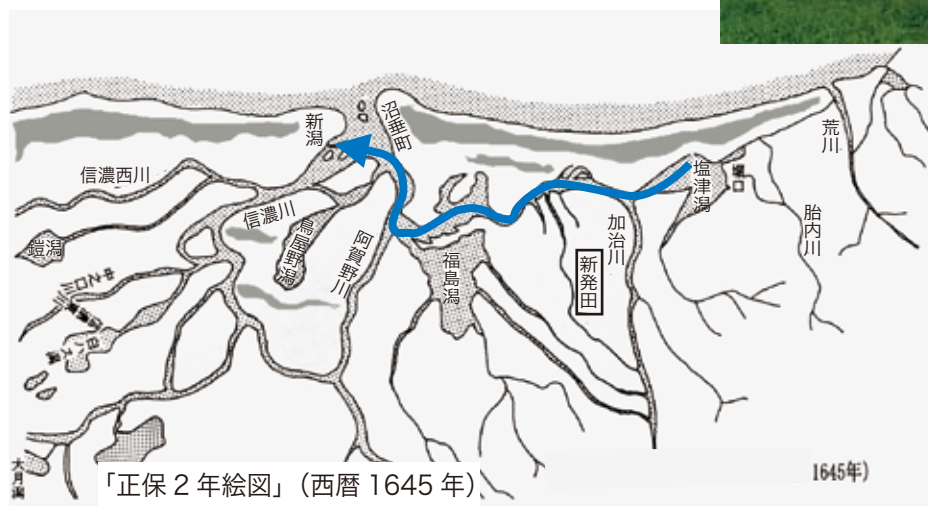
最後に寄ったのは桃崎浜荒川神社です。現地では案内役の内山隆さんが待っておられ名調子で説明をしていただきました。40分の予定が1時間半近くになり帰る時間が少し遅くなりました。しかし、夏の遅い夕暮れに助けられ、近くの城の山古墳（4世紀前半の円墳）に登り記念撮影を行い帰りました。

皆様も一度このコースを通りご覧になってください。

また「越後の水と土を訪ねる西蒲原ツアー」を23名の参加者で9月17日に行い、西蒲原の主に鰐潟より上流部を訪ねましたが紙面の都合上割愛させていただきます。



城の山古墳で記念撮影



「正保2年絵図」（西暦1645年）

1645年

1600年代の越後の地図

毎年恒例となりました、新川の川下りが7月25日に開催されました。今年も、新潟大学の学生サークル「むらづくり研究会」の方が駆けつけてくださいました。ありがとうございます。

まずは、加藤さんの指導のもとゴムボートに空気を入れて組み立てます。今回は、ゴムボート二艇と手漕ぎの板合せ舟1艇を浮かべました。

私もゴムボートの操縦をさせていただきました。農林省橋の近くから、上流の西川水路橋に向かってゆっくり進みます。

水路橋の下は狭くて通れないので、水路橋の前でトラス構造の橋を眺めながら大きくターンして下流に向かいます。

農林省橋で手を振ってくださる方々に挨拶して、頭を下げないとぶつかりそうな橋の下をくぐります。桜並木を眺めながら進むと大萩橋が見えてきます。この橋は、農林省橋よりさらに水面と橋桁

の間が狭く、しっかり頭を下げないとぶつかりそうで、スリル満点です。橋を抜けて頭を上げると左側に静田神社の鬱蒼とした林が広がります。川の中から見る新川は本当に自然豊かだと思いました。旧広通江排水路の合流点を過ぎて大きくターンして、少しスピードを上げます。

新川の水と風、そして回りの景色を眺めながらの川下りは最高に気持ちがいいです。

生き物調査では、写真のように、子供たちが楽しそうに魚を掴んでおりました。

新川に人が集うことが大切だなと感じる今日この頃です。



新川の川下り、
生き物調査のようす



昔のように泳ぐことができ、豊かな恵みを与えてくれる新川を取り戻したい、これが「越後新川まちおこしの会」設立の原点です。そのため、会の活動として、毎年、流域のごみ拾いがおこなわれています。平成25年からは、内野町内を流れる洗堀の水質浄化をめざしてEM(有用微生物群)を投入するという手法が導入されています。

今年度のEM作業は、10月7日(水)にスタートしました。EM2次発酵液づくりのために20リットルのポリタンク2個に材料をいれて仕込み作業をいたしました。翌々週の21日(水)には、

できあがったEM2次発酵液を3か所(上流域・中流域・下流域)に撒布し、藤巻さんの畑からいただいた土にEM2次発酵液・こめぬか・セラミックスを混ぜ込み、EM団子づくりをいたしました。さらに翌々週の11月4日(水)には、EM2次発酵液にくわえて発酵したEM団子を洗堀3か所に投入いたしました。以後は、この作業の繰り返しです。(注:12月以降、乾燥した土を採取できなかったため、EM団子づくりはおこなっていません)

この作業による効果を測定するため、作業開始時から定期的に簡易水質検査をおこないました。結果を過去2年と比較して以下に記します。

【透視度】(単位:cm)

年 度	平成25年度		平成26年度		平成27年度	
	8月	1月	11月	1月	10月	1月
上流域	8	100	96	95	74	100
中流域	20	23	32	56	32	50
下流域	10	11	67	33	55	62

【COD】

年 度	平成25年度				平成26年度				平成27年度			
	8月		1月		11月		1月		10月		1月	
上流域	8	8	2	2	4	5	8	7	8	8	6	6
中流域	8	8	5	5	8	8	8	7	8	8	8	8
下流域	8	8	4	4	8	8	8	8	8	8	8	8



この結果についての分析・評価は専門の方にお願ひするしかありませんが、担当者としての感想は次のとおりです。

- ①作業開始の時期を早める必要がある
- ②新川からの取排水の影響がある中流域・下流域についてEM団子の投入量をふやす必要がある(2次発酵液は排水時に一部が新川に排出されている可能性がある)
- ③家庭雑排水の流入を食い止めるため、下水道の普及につとめる必要がある

さいごに。このたびの作業のために、作業スペースを提供してくださいました松岡会長、団子づくりのために土を提供してくださいました藤巻さんに感謝いたします。

上の写真:EM2次発酵液を洗堀に散布する(中流部)

下の写真:EM団子を洗堀に投入

●人生最良の100日のうちの1日

内野の新川堤の桜もつぼみがふくらんできた。毎年この季節になると、どこで桜を見ようかと心が騒ぐ。そして、一緒に桜を見ることができなくなった人のことを思って少し胸が痛くなる。

かつて、15年ほどにわたってある金融機関(ろうきん)の6枚ものカレンダーの企画・制作にたずさわっていたことがある。日本の祭り、日本の匠、ローカル線、街道、川、港、国立公園など、さまざまな角度から日本の美を再現しようというもので、2ヶ月おきに全国の支店の協力のもとに日本各地の名所をたずねた(単純計算で、この撮影の旅だけで全国を100カ所以上まわったことになる)。

桜は、日本の至るところで鑑賞した。秋田角館・武家屋敷通りのしだれ桜や桜木内川堤の2キロにわたるソメイヨシノの並木、近鉄特急の車窓から眺めた大和盆地の町々に点在するソメイヨシノの群生、そして吉野の山桜……。印象に残る一つは、奈良桜井市の「長谷寺」のしだれ桜である。

長谷寺はもともと「牡丹」で有名なお寺だが、30年ほど前、大和路をたどるコースの中でひよいと立ち寄ったのだ。本堂に向かう長い回廊を昇り、広い境内にたどり着いた瞬間に、大きなしだれ桜が目飛び込んできた。周囲の木々はまだ芽吹いておらず、くすぶった背景の中で、そこだけに光が差し込んだようにあでやかに枝を広げていた。

カメラマンのヒデさんと並んで本堂の階段に座り込みながら、うっとり眺めた。

「これは、ぜひ入れておきたいね」

「そうだね」

どこへ、というと「人生最良の100日のうちの1日」へ、である。

「人生最良の100日」は、ぼくとヒデさんとの玉手箱みたいなもので、まだ40を過ぎたばかりで、老成していたわけではなかったが、美しい風景、いいことに出逢うたびに「これはぜひ100日のうちにに入れておこう」と嬉々として話し合ったものだ。

あれから30年。人生最良の100日が何日貯まったか、忘れてしまった。ヒデさんが20年ほど前に亡くなってしま

い、それからは数えるのをやめてしまったからだ。桜は、群れて咲くのも美しいが、1本でもじゅうぶんに美しい。長谷寺の桜は、そのうちの1本だ。長谷寺の桜を見る機会は今もう訪れないだろう。でも、今年も、この季節に長谷寺の桜とヒデさんを思い出すことができよかったです。

●浅草「神谷バー」と岐阜の薄墨桜

4年前に内野に戻ってくるまでは、東京の下町・両国界隈で暮らしていた。仕事場から、隅田川のテラスをゆっくり歩くと、40分ほどで浅草に行ける。桜の季節になると、二分咲き、五分咲き、七分咲き、満開、散り初めと2日おきくらいに通ったものだ。

行き帰りに気の利いた酒場があれば言うことはない。「花より団子」と称して、毎回、必ずと言っていいほど「神谷バー」に足を伸ばした。

浅草は昔からの観光地で、スカイツリーのできたいまはなおさらで、さまざまな人種のるつぼとなる。神谷バーはその象徴で、いろんな人が押し寄せる。よく観察すると、壁際の席は浅草の「老舗商店主=ご隠居さん」たちの指定先になっている。毎日、昼過ぎには神谷バーに来て、夕方まで世間話をして帰ることを日常としている人たちだ。

こういう常連客の席にうっかり座ると「おれの席だ」とにらまれたり、話好きで親切な人が気安く声をかけてきて電気ブランやビールをおごってくれたりする。ぼくはできるだけそういうところに席は取らないようにしていた。

何十回も通ううち、ぼくと同じ行動パターンを取っている人を見つけた。年は70歳前後、銀髪をオールバックにし、眉毛は黒く、鼻筋が通り、眼孔は鋭く(よく見るとその奥はやさしい)、細身の



2014年の観桜会

中背で、「年取ったカークダグラスみたいな紳士」である。地味な背広を着て、誰とも混じらず、いつも淡々と酒を呑んでいる。

「何者だろう？」

ある日、言問通りの本屋で浅草の古地図を買ったついでに神谷バーに寄ったら、彼の横の席が空いていた。黒ビールを呑みながらおもむろに古地図を眺めていると「それ何なの？」と話しかけてきた。前歯が2本欠けているのがわかった。それが「上村(うへむら)先生」との出会いだった。

その後は、神谷バーに行けば、先生の姿を探すようになった。読んでいる本や芝居や桜のことやいろいろな話をした。いま考えても不思議なのは、お互いに名前を名乗らなかったことだ。

アルバイトの女子大生に聞いて、上村という姓で、昔は女子大のフランス文学の教授で、奥さんと北千住あたりに住んでいるらしいことがわかった。そんなわけのわからない、わかってはわからなくてもいいつき合いが5年ほど続いた。

20年ほど前の桜が散った頃に神谷バーで逢った。「今年はね、岐阜の薄墨桜を見に行きたいんだよ」

それが上村先生との最後の会話だった。その後も何回も神谷バーに行き、彼の姿を探したが逢えなかった。半年ほどしてバイトの女の子から「上村先生は亡くなられたらしいです」と聞かされた。ほんとうに上村先生は死んでしまったのだろうか。憧れの岐阜の薄墨桜を、彼は見に行けたのだろうか。

あれから20年。昨年も「来年は見られないかもしれないから」と浅草へ女の子を誘って、ホッピー通りで呑んでいるところをテレビの取材陣に突撃され、全国に顔をさらすはめになってしまった。

今年も3月21日に開花宣言を聞き、満開をめざして上京したものの、天候不順で浅草も上野も千鳥が淵も二分咲き。空振りに終わってしまった。

でも、まだ内野の桜がある。今年も、越後新川まちおこしの会の観桜会が近づいてきた。

●橋の上から新川見れば……

「新川悠々亭」と名乗っているわが家は新川端に建つ築70年のボロ家。子どもの頃、新川端の道は兩岸ともみごとなソメイヨシノの並木になっていて、町の内外から大勢の人が桜見物に訪れたものだった。橋の上から新川見ればと内野小唄にもうたわれ、古い写真にはぼんぼりを背景に内野の芸者衆がたたずむ姿が写っており、内野がこのあたりの桜の名所だったことがわかる。いま、内野の桜の名所は内野小学校グラウンドとなってしまった。内野を知らずに越後線に乗り、内野駅のホームからグラウンドの桜を眺めたら、誰しも「ほう」と驚きの声をあげるのではないだろうか。かつて、ぼくが大和盆地を走る近鉄特急から、現れては消えていくピンクの桜の群生を目撃してため息をついたように……。

桜が満開になる4月15、16日は内野の春のお祭りで、かつてはどこの家でも草もちをつくったものだ。父の実家である浜の家(五十嵐二の町)に届けると、10円の駄賃をもらえるのがうれしかった。満開になると父の兄弟(叔父たち)がやってきて、裏の窓を開け、桜を眺めながらの宴会となった。そんな時は、卵を生まなくなったニワトリを1羽つぶしてトリ鍋にするのが恒例で、自分のトリ(ぼくがかわいがっていたニワトリ)がその番になるときは悲しくて、泣いて殺さないでと頼んだものだった。

* * * *

いま、人が集まって酒を呑んで楽しむのは桜の花の下と決まっている。満開の下にたたずむと、どこかなまめかしく怪しい雰囲気は漂うのは、桜の木の下には人が埋まっているといわれるせいだろうか。あるいは、坂口安吾の「桜の森の満開の下」の原風景は、東京大空襲の死者たちを上野の山に集めて焼いたとき、折しも桜の花が満開で、人けのない森を風だけが吹き抜け、逃げだしたくなるような静寂がはりつめていたと言われるからだろうか。

西行の「願わくは花の下にて春死なむそのきさらぎの望月の頃」にならって、友の死を思い、自分の死に方を考えてみるきょうこのごろである。

(2016年4月5日)



2016年の桜

越後新川まちおこしの会では、新川を春と秋の年2回清掃しています。

平成27年春は、6月20日(土)9時～11時、曇り、参加は190名でそのうち内野中学生が68%でした。いつも大勢参加していただき感謝しています。拾い集めたゴミは500kgで、主なものとして、自転車2台、タイヤ1個、消化器2個、他ペットボトルなどでした。

開会の挨拶のあと、ミニ講演「新川の歴史を探る」新川まるごと博物館館長として、私がお話をしました。ゴミ清掃は、4班に分かれて歩きました。終了後、参加者に感謝状とお茶を進呈しました。

秋は、10月17日(土)9～12時 晴れで参加は65名、そのうち内野中学生は72%でした。開会挨拶の後は、当会の世話人山岸俊男が「西蒲原の生き立ちと3河川の役割(西川・新川・広通江)」のミニ講演をしました。

作業は、新川、広通江川堤防等3班に分かれて実施致しました。今回は、新川右岸排水機場付近の旧橋の橋脚が残っていて船の接触事故が発生していたため、安全を考えてボートによる清掃は中止しました。集めたゴミは150kgでした。この活動は、新潟市地域活動扶助金を活用しました。

平成27年11月3日(火)文化の日に、管内の基幹水利排水路(大通川放水路・七穂排水路・月潟幹線排水路・横江幹線排水路・横江排水路)において、西蒲原地区広域土地改良事業推進協議会(構成団体:新潟市・燕市・弥彦村・西蒲原土地改良区)主催により、協議会関係者及び地域住民など総勢約400名が参加してクリーン作戦が実施されました。

当会からは小泉勇事務局長と私の二人が横江排水路の清掃に参加しました。

黒鳥公園に9時に集合した時は、暴風雨で約40名は公園内の東屋に寄り添うように避難!しばらくすると雨も小降りになったので係員の挨拶のあと上流と下流の2班に分かれてゴミ拾いが始まりました。意外とゴミは少なく小一時間くらいで清掃が終了しました。

横江排水路の脇には立派な親水公園があり、こんな近くに素晴らしい遊び場があったことがわかって「孫が大きくなったら連れてこよう」と考えると嬉しくなりました。

今後も清掃活動を通じて地域の環境美化と水質浄化といった地域資源の保全に積極的に取り組んでいきたいと考えております。

総会報告

平成28年2月21日(日)に、越後新川まちおこしの会の第10回総会が西地区公民館ホールで、会員109名のうち43名の参加のもと開催されました。

記念講演は、新潟市県議会議員 青木太一郎氏(当会会員)より「蒲原の歴史と宝」と題して2時間講演して頂きました。内容は、蒲原平野の歴史から始まり、田中角栄の思い出話にたびたび触れる、印象深いお話をお聞きできました。

その後、濱倉剛議長の下議事を審理しました。議事はすべて承認されました。その他の件で、遠藤実講演会続きを希望(顕彰会等とタイアップして事務局で検討する)。などの提案発言がありました。



平成28年2月21日
第10回総会

今朝は-2°C、久しぶりに凍った路面に転倒しない様気を配りながら急ぐ。朝 6 時 30 分予定通り内野駅を出発。目的地岩手県宮古市田老地区までは長距離、休憩はトイレのみ、昼食も 30 分でひたすら走る。予定より遅れて 4 時半頃に案内人の待つ海岸へ。早速防潮堤（津波で破壊されたもの、既設に嵩上げされたもの、高さ 14.7m にもなる新設中のものなど）の上で、津波が押し寄せた湾や、復興中の様々な風景（工事も含め）を見やりながら説明を受ける。

また、今回まで 3 回の津波の高さを表示した製氷貯氷施設では、あまりの津波の高さに度肝を抜かれる。また、田老観光ホテルが津波に 4 階まで襲われながらその中でビデオを撮り続けた支配人の話、建物は市に移管され遺産施設として活用される話、そして海拔 40~60m の高台での宅地造成工事や、公営住宅、幼稚園、診療所、駐在所など建築中の建物群などを巡回、終了後、語り部会館にてビデオを見ながら拝聴。「災害時自分の身は自分で守るしかない」が結論であった。

6 時頃今日の予定終了。一路宿泊地の釜石へ。夕方のラッシュもあり 7 時半近くにホテルに到着、すぐに近くの居酒屋へ。プレハブの平屋建で 10 軒ほどの居酒屋が連なる奥の一軒に、11 名全員で無事を感謝しつつ、思いを語り合う、有意義な一日であった。



復旧中の防潮堤

2 日目早朝 6 時出発（希望者のみであったがほぼ全員集合）、人気のない朝の釜石港の内部を見て回る（旧市場のあった場所など）。だんだん悲しみが大きくなってきた。と同時に、怒りがこみ上げてきた。

泊まったホテルの前に新日鉄住金釜石製鉄所があった。これに出会えただけでも釜石に泊まった甲斐があった。

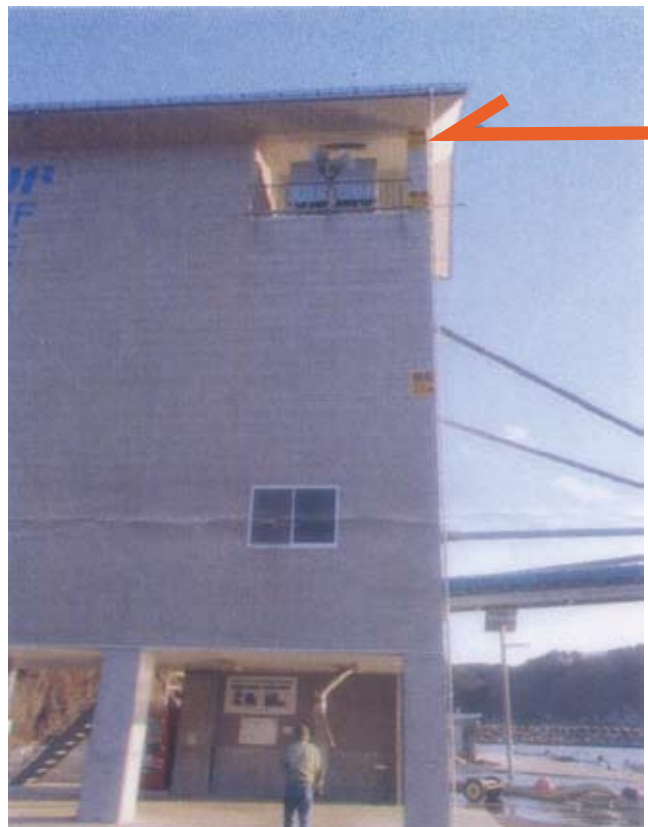
朝 8 時予定通り出発、2 日目の予定行動へ、そして 3 日目のスケジュールへと続く。

それにしても「加藤さん」。3 日間朝の 6 時から（ほぼ）一人で運転なさいました。その体力と精神力に感嘆します。とともに高い運転技術、安全への心配りなど実にすばらしい。楽しく乗せてもらいました。

また、今回は事前に調査なされた資料も私達に配布して下さいました。お陰様で前もって知識を得させて戴きましたので少しはよくわかった様に思います。

改めて厚くお礼を申し上げます。

ありがとうございました。



製氷貯氷施設 赤矢印は今回の津波の高さ

旅行二日目 釜石ホテルfolkローロ三陸釜石を後にして途中大船渡市の盛駅に行き南リアス線のバス（BRT）を見ました。

ここで今日の案内をお願いした佐々木さんに同乗していただきました。

佐々木さんの案内で大船渡の災害現場の見学し大船渡市漁市場の最上階からの展望リアス海岸さらに碁石海岸の穴通磯などその後、大船渡温泉のホテルから見る大船渡湾の天然の美しさ、良港、その裏に地震津波の恐ろしさを感じました。

昼食は牡蛎小屋の蒸牡蠣、牡蛎ご飯、一人千四百円（？）でしばし災害の恐ろしさを忘れて堪能しました。

しかし牡蛎小屋の前の十数メートルのコンクリート製の防波堤を見ると田老地区の防波堤での説明で予想津波の高さより1メートル低い防波堤を作っている基本は地震があったらまず逃げろと言われた言葉と少し矛盾を感じました。

BRTの陸前高田駅で佐々木さんとお別れし大船渡の流失した松原にあった被災した道を見学しました。

四年前にここに来た時は、ガレキが所々に山になっており建っていたのは今も残っている道の駅鉄筋コンクリート造のアパート、現在無くなっている結婚式場（？）であとは道路とその当時も生きていた信号機のみでした。そこが気仙川に吊り橋をかけベルトコンベアで広い土地を一面じゅうも盛土になっていました。

家に帰ってきて調べると総工費二千億円盛土高さ十二メートル平均七、四メートルで百二十ヘクタールの盛土だそうです。1㎡当たり百六十万六千円だそうです、（岩手日報の資料）陸前高田市の資料では今少し違いがありますが考えさせられました。

陸前高田にあった、7万本の高田松原の松の根っここの展示がありましたが、幹の部分が下になっていて実感がありませんでした。

奇跡の一本松を遠くに眺めながら気仙沼市などを眺めながらあまりのすごさで少し記憶に残らないまま石巻に到着しました。

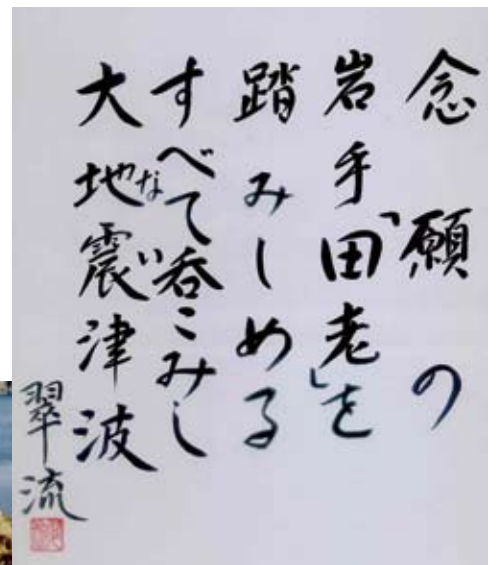
石巻市では公益財団法人の防災街歩きガイドの方から当時の写真が入っているタブレットを見ながらそれぞれの地域を見学しました。

災害現場を多く見、考えがまとまらないままホテルに入り地元の方の案内のお寿司屋さんで、夕ご飯を頂きながら現場の復興状態を本音でお聞きし面白いそうこれからどうされるのか何が一番良いのかわからない一日でした。



たろう観光ホテル

大船渡碁石海岸穴通磯



作：笹川悦夫

●宮城県石巻市 日和山・門脇・南浜地区

朝散歩として車で高台の日和山公園に向かい日の出を見に行くと、眼下の海岸沿いに造成中の門脇・南浜地区が見えました。公園の看板によれば震災時多くの人が日和山に逃げ、門脇・南浜地区は津波による被害で災害危険区域となった所だそうです。

●宮城県名取市 閑上地区

石巻市を発ち名取市閑上地区へ向かうと(今まで何回も訪れた場所だそうですが私は初めてでした)、造成地の中に小高い丘があり(ここも日和山といい、ブロックにより「閑上」と示されています)その側に「閑上の記憶」というプレハブの建物がありました。そこは閑上中学校遺族会の方々が建てた慰霊碑の社務所であり、また訪れた人々に震災の記憶を伝えていく場所でもあります。震災の記憶を抱え込んでしまわないよう、あえて吐き出す事で心を整理し、前に進もうという閑上の人々に一同涙しました。

●常磐自動車道 南相馬鹿島サービスエリア

休憩として南相馬鹿島サービスエリアに着くと、全線開通一周年として多くのテントが張られ、様々なパンフレットや切り餅が配られていました。

またトイレ等に沢山の立て看板やポスターがあり、近辺の放射線被ばく量等の情報が掲載されていて、福島原発に近づいている事を改めて実感しました。

●福島県浪江町 希望の牧場・ふくしま



相馬野馬追で有名な南相馬市馬事公苑をさらに南下していくと、「決死救命を! 団結!」「原発一揆」等スプレー書きされたサイロや看板が見えてきました。南相馬市と浪江町の境目で、福島原発から約 14km の地点に位置する「希望の牧場・ふくしま」です。

国から牛の殺処分を命じられてからも、例え商品価値はゼロになっても、原発事故の「生き証人」として生かし続ける事で後世に訴えようとしています。牛の中には原発事故以後餓死したり、病気のため脚を切ったり、原因は不明ですが白い斑点が現れたりする牛もいました。それでも牛たちは私たちの車の横を揚々と行進したり餌を頬張ったりするなど、力強く愛らしい姿を見せてくれました。

●福島県南相馬市 瀧澤牧場



先ほどの道を引き返すと、EM(有用微生物群)活用先進地としてここも以前訪問しているという牧場に着きました。ここでは出荷が再開されるほど放射線量が弱まっていますが、それは単に時間の経過だけでなく瀧澤さん達の挑戦と努力の賜物でもあります。

新たに敷地内にソーラーパネルを設置しその隙間で牧草を育てようとしたり、これまで自給できなかった稲わらを今年から使い始めようとしたりなど、次々と挑戦を続ける姿は勇ましく感じられました。

●帰路

瀧澤牧場を後にして、飯館村の綿津見神社(震災以来宮司が留まる)などに立ち寄り帰路につきました。この3日間は、残された震災の痕跡や現在まさに進んでいる復興、そして震災に向き合う人々や生き物たちの過去と現状、そして未来を見てきました。また今回の旅を計画し、長距離長時間の間運転していただいた加藤功さんや小泉勇さんをはじめとして、参加された当会の皆さんには大変お世話になりました。ありがとうございました。

五郎左衛門公園は、新川西川立体交差の水路橋がある槇尾の交差点から南に高山インター方面に進むと、右側に写真の青いポンプが道路からもよく見える新しい公園です。2014年10月のオープン後、昨年3月から高山老人クラブと越後新川まちおこしの会が交代で草取りをしています。夏の朝の草取りは気持ちがいいものです。時には霧の中だったり、寒風が吹いたりもしますが。

草を取ってきれいになった公園に保育園児の皆さんが来てくれたので、新川開削のことを、紙芝居や五郎左衛門ありがとうの歌で楽しくお伝えしました。古俣慎吾さん自作自演のこの歌は、子供たちがすぐに覚えてしまつて歌い出します。

草取りは当会では2015年3月12日、4月12日（高山老人クラブと合同）、6月13日、7月11日、10月10日、2016年3月9日に行いました。

また、紙芝居は、2015年10月3日には大人の皆さんに、10月10日は保育園の皆さんに、10月16日は小学校の皆さんに見てもらいました。新川の歴史の他に、新川の生き物の紙芝居もしています。上演前日に急ごしらえで段ボールを切って作った紙芝居上演用の箱ですが、楽しく上演できました。短い時間なら子供たちも聞いてくれます。

小学校からは子供たちのお礼状と感想も送られてきて、紙芝居のオバチャンは感激しましたとき。めでたしめでたし....



7/11 草取り

紙芝居 2種



紙芝居の道具



6/13 草取り

●源流「信濃川」

信濃川は、長野県甲武信ヶ岳の標高 2475 メートルの森林を発し、佐久盆地、上田盆地を貫流する。千曲市で向きを大きく変え、長旅のあと新潟県津南町に入る。魚沼丘陵と並走するように北上し、新潟市で日本海に出る。その長さ 367 キロ。新潟・東京間にほぼ匹敵する。途中、流域の山々から下る水を集めた犀川や魚野川など大小の河川と合流し、日本一の水量をほこる大河になる。上流の長野県では千曲川、新潟県に入ると信濃川と呼ばれる。川は長野の山々と新潟の大地をつないでいる。

●にしがわ「西川」

信濃川の分流。古くは「西信濃川」や「信濃西川」と呼ばれていたそうである。天正年間 1573 年～1591 年頃上杉家が直江兼続に大川津村から牧ヶ花村までおよそ 2 里(約 7.9 km)新しい川を作るよう命じる。これが「西川」の始まりと言われている。旧分水町大川津付近で信濃川左岸から分流し、西蒲原郡の西側を北へ貫流して巻町で弥彦山麓から流れる矢川(ヤガワ)を合わせ、新潟市平島で再び信濃川に合流する。一級河川、流長 44.5km の川である。大河津分水完成までは、信濃川の水を本流中ノ口川とともに水勢をを三分し流す分水で、新潟平野を東西に四分する河川であった。「越後名寄」に「信濃川と【西川】の間の総号を河中島と言へり」とあり、「越後野志」には西川島として信濃川の分流「西川」と中ノ口の間を言ふとある。「西川」は上流の大川津から最下流の平島までの勾配はたいそう小さな河川であり、流れが緩く川底に土砂が堆積し易い。そのために河床が地面より高い天井川を形成している。川沿いに自然堤防が発達し全体に天井川の様相を呈す。上流部では、現今も灌漑用水源機能を有するが、巻町より下流では兩岸低湿帯の排水路である。かつては矢川・広通江を左岸から、早通川を右岸から合わせた排水機能も兼備していた。

現新潟市内野で東岸から流入した早通川は西川島北部低湿帯の遊水池である三瀧、鎧瀧・大瀧・田瀧との連絡河川であったから、田瀧から西へ日本海へとまっすぐ放流する。新川が文政年間西川を底樋でくぐって開削されると早通川削減、広通江も新川に流入し「西川」の排水機能は半減した。

「図解にいがた歴史散歩西蒲原」より抜粋
昭和 59 年 6 月 20 日初版発行 新潟日報事業社出版部
日本一の穀倉地帯への道 西潟 昇

今から千年くらい前は西蒲原は弥彦山塊の山麓部と黒埼町の緒立付近の砂丘地などを除くと、大部分が浅い海であった。そこへ信濃川をはじめ五十嵐川など中小河川が多数流れ込み、数百年にわたる土砂の堆積により、次第に島状に陸地が形成されてきた。平安時代の末ごろから室町時代にかけて陸化したと推定されるわずかな土地で、早くも人々の生活が始められた。平野の各地に土師器や須恵器などの遺物を伴う先住民の遺跡が多数埋没している。彼ら先住民は、絶えず洪水の恐怖に脅かされながら半農半漁の生活を営んでいたものであろう。十六世紀の戦国末期になると、現在の分水町・吉田町・燕市・中之口村など上流域の方々から本格的に自然堤防上の各所に人々が住み着き、現代につながる村落の形成が始まる。農民が自らの力で少しずつ広げていった所、藩や幕府の命令で開かれた土地、幕末における有力商人の資金で干拓された所、新川の開削・にしがわ「西川」底樋の伏せ込みによって浮上してきた土地などである。江戸時代に作られた「生保地図」の復元図には、現在の西川である「信濃西川」、現在の信濃川である「信濃東川」が描かれている。



私の両親は東京・亀戸に世帯をもちまして、私は昭和11年に出生し、のちに一家は同じ城東区南砂町に移住しました。13年長女16年次女誕生、私は6丁目双葉保育園に入園、18年3月卒園修了します。4月第3砂町国民学校に入学します。

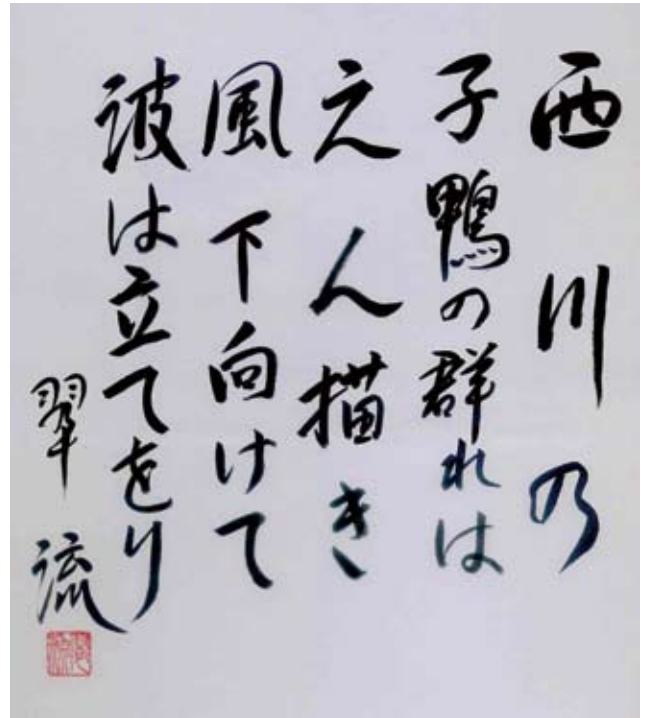
同年秋両親郷里のまち、新潟・巻の地、母方の叔母さんに宅へ疎開になります。所は上の一区に愛宕神社脇道十字路西角隣に位置し土手の広い家があります。表通りのお店「植野屋」鮮魚仕出し業二階に一家5人冬を越します。裏には「西川」が悠久に流れております。ここで初めて「西川」を知ります。時に7歳になります。翌19年春、弟が誕生します。

私は巻町で育ちて社会人にさせて貰いました。後年、三井物産系商社単身赴任寮の管理人を家内と共に経て、民間の企業にも労をせし私70歳まで現役にて勤めた後、今日に至っております。

70余年経ても「西川」(ニシガワ)濁音、濁る呼称に変わらず、私の身体に染み、焼き付いております。

短歌 相馬御風

疎開して来し東京の子どもらもいつしか馴れて雪とあそべる



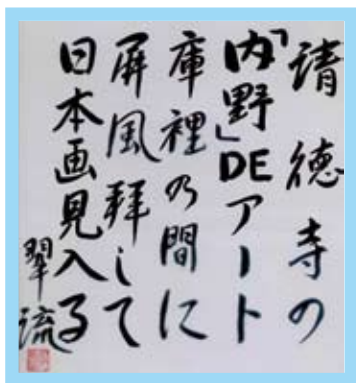
作：笹川悦夫



悦夫



- 懐かしき 新川暗闇 水路橋
- 民の為 五郎左衛門 新治水
- 最古史碑 治水偉績碑 現在地
- 鎧潟 干拓石碑 三つ也
- 完記念 平山征夫 以和治水
- 大潟を 木場排水機 干拓す
- 文政に 底樋二門で 開通す



作：笹川悦夫



静田神社



西川水路橋

新川の風景いろいろ

新川ほたる



当会の会員数は、お陰様で毎年 100 余名を維持しております。誠に有難うございます。

さて、当会の入会申込書を見ますと次のように書かれております。

モットーに“食べた、泳いだ、「あのころ」の新川を「これから」の子供に”を掲げ、この目的に向けて、次の活動を計画しています。

- ①立体交差のある新川に、パネル展示や大型標識塔の設置
- ②金蔵坂掘削公園の整備と新川に関する物の展示
- ③産業遺産とも言うべき右岸排水機場の保存を含む「新川まるごと博物館」構想の計画提案
- ④新川の水質浄化と美化運動
- ⑤新川で獲った魚などを食べる催しや、花見の川下り、花火大会、釣り大会、写生会など

現在達成しているものは、①、③、④などが挙げられます。計画中のものとして、②があり、これからというものは、⑤です。

会の結成の目的を今一度振り返り、一步一步地に活動してゆきたいと考えています。

皆様のご指導、ご鞭撻をお願い致します。

編集後記 安富佐織

今年は例年より遅い時期に新川通信を編集・発行することになり、今年の桜の花の写真がたくさん入って良かったと思います。ご寄稿くださったみなさま、ありがとうございました。

新川通信 -9号 年 1 回発行
(現在会員数 109 名)

- 発行：越後新川まちおこしの会
- 事務局：新潟市西区内野山手 2-18-8-6
小泉 勇 電話 090-5498-8612
E-mail:iikoi@r6.dion.ne.jp

入会案内

本会は、新潟市内を流れる西川と新川の立体交差などの近代文化遺産とも言える、新川の歴史およびその流域で育かれた産業や文化について理解を深め、その環境保全につとめながらさまざまな活動を通じて、流域および周辺地域のまちおこしに寄与することを目的に平成 19 年 2 月に発足しました。
年会費 1,000 円です。ご入会をお待ちしています。